

- IT 部門がすべての IT 予算を集中管理している
- 事業部門が独自に管理する IT 予算もあるが、IT 部門が集中管理する方向
- 各事業部門が個別に IT 予算を編成・管理している
- 事業部門が独自に管理する IT 予算を増やす方向

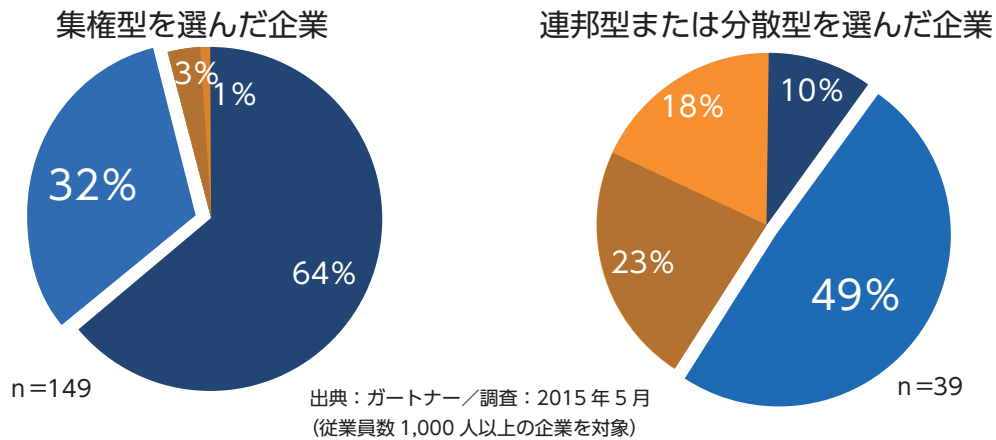


図1 「集約型」企業と「連邦型または分散型」企業のIT予算管理体制

ト最適化」を実現し「安全性・安定性」を高めるためである。その結果、優先度付け、リスク確認、承認などのプロセスが必要となり、導入に時間がかかってしまう。一方、個々の事業部門はITを活用して、ビジネス効果の最大化という目標の下、「スピード重視」の観点でITを検討している。その結果、コストよりスピードを重視し、セキュリティの確保ができないままITを管理するなど、非効率な投資が増え、ともするとITマネジメントを軽視した対策に陥ることがある。IT部門のミッションは、企業全体にとってのIT投資を最適化することにほかならない。しかしながら、シャドーITによりIT部門は、企業全体のITコスト最適化やリスクの最小化が難しくなり、企業全体のITに対して説明責任を全うできなくなってしまう。

前出の片山氏は次のように語っている。

「ITの計画に際しては、どのようなITについても事業部門における計画の段階でIT部門に報告するというルールを企業全体で策定しておくことが重要になります。その上で、『ミッション・クリティカル性』（ビジネスへの影響が大きい）と『アプリケーションの複雑性』の2軸を起点にして、IT部門が主導すべきITと、スピードを重視して緩やかな管理にすべきITを明確なことを推奨します。ただし、事業部門が重視する『ビジネス効果の最大化』を犠牲にすることはできません。シャドーITに対しては、管理を強化するというより、コスト最適化とリスク最小化とのバランスを取りながら、事業部門のビジネスをサポートすることに重点を置くべきです。

すなわち、投資内容の報告をしてもらい、代わりに、リスク軽減、コスト抑制、調達最適化、最適なテクノロジー選定についてアドバイスし、事業部門にとってのメリットを高めるという位置付けです。」

調査手法

2015年5月にガートナーが従業員数1,000人以上の国内の企業に実施した本調査は、ユーザー企業のIT部門のマネージャーを対象にしたもの。対象企業の業種は全般にわたり、有効回答企業数は188件だった。

●お問い合わせ先●

ガートナー ジャパン株式会社
広報室
TEL：03-6430-1888